

米軍MV22 オスプレイ 相次ぐ訓練・事故に抗議

赤嶺氏ら沖縄防衛局に

米軍のMV22オスプレイによる相次ぐ訓練・事故に対し、日本共産党沖縄県委員会・県議団は26日午後、沖縄防衛局（同県嘉手納町）で厳重に抗議し、在沖縄米軍機の飛行・訓練を停止させることや米軍普天間基地（同県宜野湾市）の即時運用停止と閉鎖・撤去を要請しました。

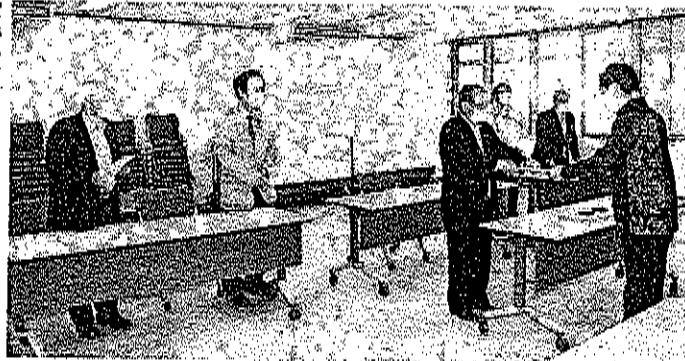
米軍のMV22オスプレイは、同基地の所属機が23日、金属製の水筒を同市野瀬（のだけ）の住宅密集地に落下させ、19日には県などへの事前

通告もなく3機が米軍那覇軍港に飛来しました。今月に入つてつい下げ訓練も相次いでいます。25日には、3機が同軍港に陸揚げされているのが確認されました。党県委員長の赤嶺政賢衆院議員は、26日午前に党県議団と水筒落下現場や同軍港を視察しました。

米軍のM▼22オスプレイは、米軍が「頻繁に実施されるものではない」としているにもかかわらず、同港への飛来・陸揚げが相次いだことの説明を求めました。応対した

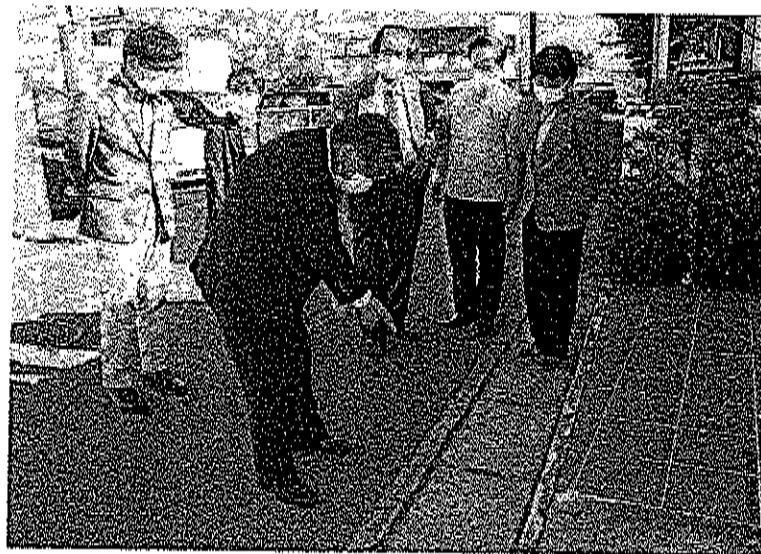
防衛局での要請で赤嶺氏は、米軍が「頻繁に実施されるものではない」としているにもかかわらず、同港への飛来・陸揚げが相次いだことの説明を求めました。応対した宮崎順・防衛局次長は「米側に情報提供を求め、得られた情報を使わかに関係自治体にお知らせする」と述べるだけで、説明できませんでした。

提出した要請書は、水筒落下発生後の通報体制の遅さを批判。「那覇軍港の目的外使用を許さず、無条件撤去を米側に求める」と「日米地位協定の抜本的な改定」なども求めています。党県委・県議団は26日、那覇市の外務省沖縄事務所でも抗議・要請を行いました。抗議・要請には党那覇市議も参加しました。



高崎次長（右端）に要請書を手渡す赤嶺氏（左から3人目）
6月26日、沖縄県嘉手納町

水筒落下現場を視察



水筒の落下現場を視察する赤嶺氏（手前）と党県議団=26日、沖縄県宜野湾市